

わだち WADACHI

vol. **513**
2024.5

Fukushima Trucking Association report

福島県トラック協会広報誌

トラックは生活と
経済のライフライン

Topics

- 交通遺児基金への寄付活動
- 令和6年度各種助成事業一覧
- 物流frankly speaking

ゴミは持ち帰ろう！
5月はトラック運送業界の
美化月間です。

磐梯吾妻スカイライン

公益社団法人 福島県トラック協会
<http://fukutora.lat37n.com/>



🎵💖 #女子トラ走る!



すてきなこの時間は、
すてきなこの仕事が
支えている。



福島県トラック協会
FUKUSHIMA TRUCKING ASSOCIATION



Contents -目次-

県ト協NEWS

令和5年度 第7回理事会	1
交通遺児基金への寄付活動	1
令和6年度 各種助成事業一覧	2
適正化事業・指導項目別調査結果	3

支部だより

輸送・荷待ち・荷役などに関する輸送実態把握のための
意見等の募集チラシ

会員だより

ふくトラ・インフォメーション	8
コラムわだち	8
物流 frankly speaking	10
陸災防 NEWS	14
プロスポーツ4チームを応援しています!	16
交通事故統計	16

令和5年度第7回理事会

開催日 令和6年3月25日(月) 参加理事 28名 参加監事 5名
場 所 郡山市 県中研修センター

報告事項

- 報告事項の1 陸運事業者のための「安全マネジメント」研修の開催結果について
詳細については本誌1月号参照。
- 報告事項の2 令和5年度過労死等防止対策セミナー開催結果について
詳細については本誌3月号参照。
- 報告事項の3 令和5年度「標準的な運賃」活用セミナー開催結果について
詳細については本誌3月号参照。
- 報告事項の4 令和5年度物流セミナー開催結果について
詳細については本誌3月号参照。
- 報告事項の5 令和5年度第3回交付金委員会の審議結果について
- 報告事項の6 「令和6年能登半島地震」の対応について
全日本トラック協会を通じ当協会から「災害見舞金」150万円を寄付。
- 報告事項の7 健康経営優良法人2024(中小企業法人部門)認定について
- 報告事項の8 「全ト協表彰規程による表彰」並びに「正しい運転・明るい輸送運動の表彰」
受賞者について

議題

- 第1号議案 総務委員会答申について
- 第2号議案 令和6年度事業計画(案)について
- 第3号議案 令和6年度公益法人定期提出書類(案)について
- 第4号議案 令和6年度定時総会対応について ※第1～4号議案まで原案通り可決。
- 第5号議案 入会会員及び退会会員について
1社の入会、9社の退会が可決された。(承認後会員数 1,219 (賛助会員 277 含む))
- その他
 - ① 適正な取引を阻害する疑いのある荷主企業に関する匿名アンケートについて
 - ② 「2024年問題」に関する新聞広報について
 - ③ 今後の行事予定について

交通遺児基金への寄付活動

実施日 令和6年3月21日(木) 参加者 佐藤信成会長
訪問先 福島県庁

福島県トラック協会は県交通遺児奨学基金協会(理事長 内堀雅雄知事)へ交通遺児の健全育成のために30万円を寄付した。

贈呈式は3月21日(木)に福島県庁で行われ、佐藤信成会長から福島県 鈴木竜次生活環境部長に贈られた。これを受けて鈴木生活環境部長より感謝状が贈呈された。

寄付は今回で通算25回目となり累計500万円となった。



【鈴木生活環境部長と佐藤会長】

令和6年度 各種助成事業一覧

区分	助成事業名	制度の概要	助成額等	限度額等	予算額(千円)
交通安全対策	1 運転経歴証明書	運転者の運転経歴証明書取得に対する助成	670円/人・年	1事業者150人上限	7,705
	2 適性診断	運転者適性診断(一般・初任・適齢)の受診料に対する助成	・一般診断 2,400円/人 ・初任診断 2,000円/人 ・適齢診断 2,000円/人	一人年1回	13,960
	3 睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査	運転者の睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査に要する経費(第一次検査、第二次検査)に対する助成	5,000円/人	一人年1回 1事業者50人まで	4,000
	4 睡眠時無呼吸症候群精密検査(PSG)	SAS検査の結果、精密検査の対象となった者の検査費用に対する助成	20,000円/人	一人年1回	300
	5 脳健診	運転者(40才以上)の健康管理のため、脳健診受診に対する助成	10,000円/人(上限)	1事業者15名まで	2,500
	6 ドライバー研修	安全運転研修施設にドライバー等を派遣する訓練経費(受講料)に対する助成	①全ト協主催の特別研修 Gマーク認定事業所 全額 その他 7割 ②全ト協主催の一般研修 全額	1会員10名まで (①②合算)	2,000
	7 EMS	EMS機器の導入に要した経費に対する助成	導入経費の1/2(上限40,000円)	1会員15台上限	20,000
	8 ドライブレコーダー	ドライブレコーダーの導入に要した経費に対する助成	導入経費の1/2 ①運行管理連携型 40,000円(20,000円) ②標準型 20,000円(20,000円) ③簡易型 10,000円(10,000円) ※()書きの金額は、国の補助金を受けた場合	1会員15台上限 (①～③合算)	20,000
	9 安全装置	後方・側方視野確認支援装置、側方衝突監視警報装置、突呼吸吹込み式アルコールインターロック装置、IT機器を活用した遠隔地で行う点呼に使用する携帯型アルコール検知器及びトルクレンチの導入に要した経費に対する助成	①後方視野確認支援装置 40,000円/台 ②側方視野確認支援装置 40,000円/台 ※後方及び側方視野確認支援装置の同時導入の場合は50,000円/台 ③側方衝突監視警報装置 120,000円/台 ④呼吸吹込みアルコールインターロック装置 40,000円/台 ⑤IT機器を活用した遠隔地で行う点呼に使用する携帯型アルコール検知器 40,000円/台 ⑥トルクレンチ 70,000円/台	1会員15台上限(①～⑤合算) トルクレンチは車両総重量8t以上の事業用トラックを管理する事業所に1台上限	16,500
	10 フォークリフト技能講習	陸災防の行うフォークリフト運転技能講習の受講経費に対する助成	4,000円/人		400
	11 準中型・中型・大型免許等	従業員に準中型、中型免許、大型免許、けん引免許を指定教習所で取得させた費用に対する助成	・準中型免許 40,000円/人 ・中型免許(二種は除く) 75,000円/人 ・大型免許(二種は除く) 150,000円/人 ・けん引免許 50,000円/人 ・準中型免許限定解除 20,000円/人 ・中型免許限定解除 30,000円/人	1会員50万円上限	20,000
	12 健康診断	運転者の健康診断に対する助成	①定期健康診断又は雇入れ時健康診断(運転者として雇入れた場合)1,500円/人 ②特定業務従事者(深夜業)健康診断1,500円/人	1事業者 車両台数×1.4上限(申請回数は運転者1人につき、①・②それぞれ1回ずつ)	14,000
	13 血圧計	中小企業事業者が全自動血圧計の導入に要した経費に対する助成	導入経費の1/2(上限70,000円)	1会員2台上限	700
	14 女性用休憩施設等	女性及び高齢の従業員用の休憩室、トイレ等の増改築経費に対する助成	工事経費の1/2(上限300,000円)	1会員1施設まで	1,500
交通公害対策	15 アイドリングストップ支援機器	アイドリングストップ支援機器の導入に要した経費に対する助成	①電気式の毛布・マット 15,000円/枚 ②エア・温水式ヒーター 60,000円/台 ③蓄冷式クーラー(デンソー、日野、三菱、UD製) 50,000円/台、車載バッテリー式冷房装置 60,000円/台	①電気式の毛布・マット 30枚上限 ②エア・温水式ヒーター 3台上限 ③蓄冷式クーラー・車載バッテリー式冷房装置 3台上限	5,500
	16 ポスト新長期	ポスト新長期規制適合車の導入に要した経費に対する助成	①小型 新車 20,000円 ②中型 新車 40,000円 ③大型 新車 60,000円	1会員15台上限(①～③合算)	23,000
	17 環境対応車	環境対応車(天然ガス、ハイブリッド、電気、燃料電池トラック)の導入に要した経費に対する助成	対象車両ごとの助成額(全ト協・県ト協)など、詳細は要領を参照のこと	1会員5台上限	
	18 エコタイヤ	エコタイヤの導入に要した経費に対する助成	2,000円/本 車両数×2/3×12本上限	1会員300本上限	40,000
研修・調査	19 中小企業大学校	中小企業大学校の対象講座を受講した場合の受講料に対する助成	受講料の2/3相当額		190
	20 グリーン経営認証	グリーン経営認証を取得又は更新した際の費用に対する助成	新規取得 100,000円 更新 50,000円	1事業者1回/年(支店、営業所の数にかかわらず年度内で1事業者につき取得・更新のどちらか1回)	1,500
基金運営	21 近代化基金利子補給	設備資金、環境対応車・省エネ機器導入資金、ポスト新長期等規制適合車導入資金の借入に対する利子補給	設備資金 利率0.5% 環境対応車・省エネ機器導入 利率0.5% ポスト新長期等規制適合車導入 利率0.5%	設備資金 1会員 3千5百万円 環境対応車・省エネ機器導入資金 1会員 7千万円 ポスト新長期等規制適合車導入資金 1会員 3千5百万円	2,130
	22 信用保証料(一般保証)	信用保証協会の信用保証料(一般の保証)に対する助成	信用保証料の額が50,000円まで 全額 50,000円～ 50,000円に50,000円を超えた額の1/2を加えた額	年度内100,000円上限	1,500
	23 信用保証料(セーフティネット保証)	信用保証協会の信用保証料(県制度資金等の保証料)に対する助成	信用保証料の額が100,000円まで 全額 100,000円～ 100,000円に100,000円を超えた額の1/2を加えた額	年度内200,000円上限 ※「災害関係保証」又は「東日本大震災復興緊急融資」の場合は400,000円上限	4,000
	24 利子(セーフティネット保証)	県ト協の信用保証料助成を受けたものに対する借入利子の助成	0.8%(3年間) ※借入(支払)利率が0.8%を下回る場合は借入(支払)利率と同率		7,000
適正化	25 運行管理者講習	運行管理者講習(一般、基礎)の受講料に対する助成	一般講習 1,500円/人・年 基礎講習 5,000円/人・年	一般講習は選任管理者のみ 基礎講習は車両台数の10%を上限	3,500
計					211,885

適正化事業・指導項目別調査結果

令和4年度、5年度対比（令和5年4月～令和6年3月）

区分	重点	調査事項（☆印は霊柩事業者除外）	令和4年度			(否) 順位	令和5年度			(否) 順位	R4、R5 年度 (否率) 増減
			調査 件数	(否) 件数	(否) 率		調査 件数	(否) 件数	(否) 率		
Ⅰ 事業計画		1 主たる事務所及び営業所の名称位置に変更はないか。	440	13	3.0%		519	14	2.7%		-0.3%
		2 営業所に配置する事業用自動車の種別及び数に変更はないか。	440	19	4.3%		518	32	6.2%		1.9%
		3 自動車車庫の位置及び収容能力に変更はないか。	440	34	7.7%		519	50	9.6%		1.9%
		4 乗務員の休憩・睡眠施設の位置、収容能力は適正か。	440	24	5.5%		519	28	5.4%		-0.1%
		5 乗務員の休憩・睡眠施設の保守・管理は適正か。	440	26	5.9%		519	26	5.0%		-0.9%
		6 届出事項に変更はないか。(役員・社員、特定貨物に係る荷主変更等	275	5	1.8%		375	14	3.7%		1.9%
		7 自家用貨物自動車の違法な営業類似行為(白トラ利用等)はないか。	439	0	0.0%		511	0	0.0%		0.0%
		8 名義貸し、事業の貸渡し等はないか。	439	0	0.0%		511	1	0.2%		0.2%
計			3353	121	3.6%		3991	165	4.1%		
Ⅱ 帳票報告等		1 事故記録が適正に記録され、保存されているか。	153	1	0.7%		184	3	1.6%		1.0%
		2 自動車事故報告書を提出しているか。	33	0	0.0%		41	0	0.0%		0.0%
		3 運転者台帳及び従業員台帳が適正に記入等され、保存されているか	439	1	0.2%		519	7	1.3%		1.1%
		4 車両台帳が整備され、適正に記入等がされているか。	439	1	0.2%		519	2	0.4%		0.2%
		5 営業報告書、事業実績報告書を提出しているか。(本社巡回に限る)	261	41	15.7%	⑥	378	57	15.1%	⑩	-0.6%
計			1325	44	3.3%		1641	69	4.2%		
Ⅲ 運行管理等		1 運行管理規程が定められているか。	439	0	0.0%		519	0	0.0%		0.0%
	○	2 運行管理者が選任され、届け出されているか。	437	2	0.5%		502	2	0.4%		-0.1%
		3 運行管理者に所定の研修を受けさせているか。	432	30	6.9%		500	57	11.4%		4.5%
		4 事業計画に従い、必要な員数の運転者を確保しているか。	439	0	0.0%		511	0	0.0%		0.0%
	○	5 過労防止を配慮した勤務時間、乗務時間を定め、これを基に乗務割を作成し、休憩時間、睡眠のための時間が適正に管理されているか。	441	59	13.4%	⑧	521	99	19.0%	⑥	5.6%
		☆ 6 過積載による運送を行っていないか。	439	0	0.0%		510	0	0.0%		0.0%
	○	7 点呼の実施及びその記録、保存は適正か。	441	82	18.6%	③	521	109	20.9%	④	2.3%
		8 乗務等の記録(運転日報)の作成・保存は適正か。	439	4	0.9%		519	3	0.6%		-0.3%
		☆ 9 運行記録計による記録及びその保存・活用は適正か。	421	12	2.9%		490	8	1.6%		-1.2%
		10 運行指示書の作成、指示、携行、保存は適正か。	157	26	16.6%	⑤	155	35	22.6%	③	6.0%
	○	11 乗務員に対する輸送の安全確保に必要な指導監督を行っているか。	439	58	13.2%	⑨	519	97	18.7%	⑦	5.5%
	○	12 特定の運転者に対して特別な指導を行っているか。	288	95	33.0%	①	371	135	36.4%	①	3.4%
	○	13 特定の運転者に対して適性診断を受けさせているか。	289	49	17.0%	④	373	78	20.9%	④	4.0%
計			5101	417	8.2%		6011	623	10.4%		
Ⅳ 車両管理等		1 整備管理規程が定められており、これに基づき、適正に整備管理業	437	0	0.0%		503	1	0.2%		0.2%
	○	2 整備管理者が選任され、届け出されているか。	436	2	0.5%		498	5	1.0%		0.5%
		3 整備管理者に所定の研修を受けさせているか。	435	118	27.1%	②	494	160	32.4%	②	5.3%
		4 日常点検基準を作成し、これに基づき点検を適正に行っているか。	439	15	3.4%		516	23	4.5%		1.0%
	○	5 定期点検基準を作成し、これに基づき点検・整備を行い、点検整備記録簿等が適正に保存されているか。	439	58	13.2%	⑨	519	82	15.8%	⑨	2.6%
計			2186	193	8.8%		2530	271	10.7%		
Ⅴ 労基法等		1 就業規則が制定され、届け出されているか。	258	9	3.5%		321	5	1.6%		-1.9%
		2 36協定が締結され、届け出されているか。	436	27	6.2%		499	21	4.2%		-2.0%
		3 労働時間、休日労働について違法性はないか。(運転時間は除く)	437	0	0.0%		511	1	0.2%		0.2%
	○	4 所要の健康診断を実施し、その記録・保存が適正にされているか。	438	60	13.7%	⑦	519	87	16.8%	⑧	3.1%
計			1569	96	6.1%		1850	114	6.2%		
Ⅵ 法定福利		1 労災保険・雇用保険に加入しているか。	437	1	0.2%		516	8	1.6%		1.3%
		2 健康保険・厚生年金保険に加入しているか。	438	2	0.5%		514	8	1.6%		1.1%
計			875	3	0.3%		1030	16	1.6%		
安マネ		1 運輸安全マネジメントの実施は適切か。	439	33	7.5%		513	41	8.0%		0.5%
計			439	33	7.5%		513	41	8.0%		
合計		実態調査総件数	14848	907	6.1%		17566	1299	7.4%		

協会ホームページにて、「ワースト10否」についての情報も公開しておりますので、ぜひご確認ください。

支部だより

各支部の活動をお知らせ



県北支部

「安全大会」を開催

- 開催日 令和6年3月2日(土)
- 場 所 福島市 ウィル福島アクティおろしまち
- 参加者 160名
- 講 演
 - 演題 「安全運転で大事なたった一つのこと」
 - 講師 一般社団法人日本事故防止推進機構理事

本大会は陸災防県北分会と共催となっており、第一部では勤続10年以上・無事故無違反が条件となる優良従業員表彰(50名)を実施。第二部では上記講演が行われた。大会最後に安全宣言を採択し、安全運転及び労災事故防止に向け結束を固めた。



県北支部が福島市・二本松市・伊達市へ交通遺児激励金を贈呈

県北支部では、安全大会のチャリティ募金の浄財及び支部事業費の一部を交通遺児激励金として県北各市へ贈呈している。贈呈式の詳細については下記のとおり。

【福島市】

- 開催日 令和6年3月28日(木)
- 場 所 福島市役所
- 寄付金 15万円

※21回目の贈呈



【福島市 木幡市長へ激励金を贈呈する蓬田支部長】

【二本松市】

- 開催日 令和6年3月15日(金)
- 場 所 二本松市役所
- 寄付金 10万円

※13回目の贈呈

【伊達市】

- 開催日 令和6年3月6日(水)
- 場 所 伊達市役所
- 寄付金 10万円

※13回目の贈呈

県中支部

事故防止講習会を開催



- 開催日 令和6年3月8日(金)
- 場 所 郡山市 郡山ビューホテルアネックス
- 参加者 92名

- 講演①
 - 演題 「交通事故の防止について」
 - 講師 郡山警察署 相良 昭博 交通第一課長
- 講演②
 - 演題 「出会頭事故の実態を知る」
 - 講師 交通安全アドバイザー 長森 紀紘 氏

県南支部

白河地方広域市町村圏消防本部が県南支部へ感謝状を授与

開催日 令和6年3月7日(木)

場 所 白河市 白河地方広域市町村圏消防本部

参加者 橋本一美 県南支部長

令和5年3月8日に発生した白河市小田川番倉地内林野火災において、白河の関トラックステーションを消防防災ヘリ複数機の給水拠点（離着陸場）として使用したことにより、消火回数含め有効な活動につながったことに対する感謝状が内山誠消防本部長から橋本一美支部長へ授与された。



県南支部が白河市と「災害時における支援物資等の輸送に関する協定」を締結



開催日 令和6年3月21日(木)

場 所 白河市 白河市役所

参加者 鈴木和夫 白河市長ほか4名
橋本一美 県南支部長ほか1名

締結式で鈴木市長は「協定締結は、白河市の目指す災害に強いまちづくりに大きく寄与するものであり、大変心強く感じております。」と感謝を述べ、これを受け橋本支部長は「白河市との連携を密にし、災害時の迅速な対応に努めたい。」と決意を新たにしました。

会津支部

会津支部が親睦ボウリング大会を開催



開催日 令和6年3月2日(土)

場 所 会津若松市 ボウルサンシャイン

参加者 58名(15チーム)

会津支部（菅野高志支部長）は支部会員相互の親睦を図るため、親睦ボウリング大会を開催した。

大会は2ゲームで得点を競い、団体戦と個人戦を実施した。終了後、同会場にて表彰式を開催した。上位入賞者は以下のとおり。

団 体 戦

- 👑 優勝 全農物流(株)会津事業所
- 👑 準優勝 美里建設工業(株)
- 👑 第3位 両沼貨物自動車(株)

個 人 戦

- 👑 優勝 大巴 敏宏 (全農物流(株)会津事業所)
- 👑 準優勝 佐藤 道久 (全農物流(株)会津事業所)
- 👑 第3位 佐藤 孝之 (川合運輸(株)会津営業所)

県北支部

相双支部

「春の全国交通安全運動出動式」に参加

県北支部と相双支部は、令和6年春の全国交通安全運動が始まるのを前に地元警察署等が主催する「交通安全運動出動式」に参加した。

県北支部の出動式では、関係者の挨拶の後、新入学予定児童が一日警察官に任命され交通安全を元気に宣言した。その後、参加者たちは、来店者に交通安全に関するチラシ、グッズを配布しながら交通安全の呼びかけを行った。蓬田支部長、佐伯副支部長ほか女性部会員3名、事務局2名が参加した。

相双支部の出動式では、関係者の挨拶や車両出動に続き、参加者たちは、プラカードを掲げてドライバーに交通安全を呼びかけた。西山副支部長ほか女性部会員3名、事務局1名が参加した。



県北支部
開催場所 福島市 イオン福島店駐車場



相双支部
開催場所 双葉警察署前

いわき支部

いわき支部が「安全運転ドライバー研修会」を開催

開催日 令和6年4月13日(土)

場 所 いわき市 タイヘイドライバーズスクール

参加者 23名(午前11名、午後12名)

研修会では道交法などの座学研修に加え、タイヘイドライバーズスクール教官指導のもとコース内での実技が行われた。

本研修会は年4回開催予定となっており次回以降のスケジュールは下記のとおり。



2回目 令和6年7月6日(土)

3回目 令和6年11月9日(土)

4回目 令和7年1月11日(土)



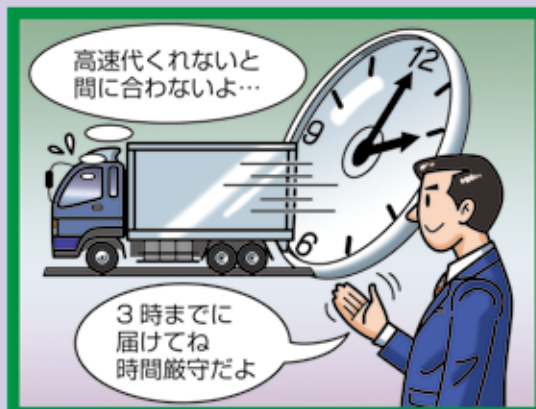
積込先、配送先で 困りごと、ありませんか。

情報ください

恒常的に長い荷待ち時間



無理な到着時間の設定



過積載になるような依頼



大型台風や豪雨・豪雪日の配送

荷主等に対する困りごとの情報は

荷主名 (〇〇株式会社など)、**具体的な場所** (〇〇市〇〇物流センターなど)、**具体的内容** (〇月〇日、急な荷物量の増加により過積載を強要されたなど) を下記投稿サイトにお寄せください。

意見・事例として投稿していただきたい項目です。

- ① つねに出荷準備が遅れて**荷待ち時間が長い**
- ② いつも配送先で**荷待ち時間が長い**
- ③ スピード違反しないと間に合わない**無理な到着時間を指定された**
- ④ 交通事故渋滞や悪天候など、**やむを得ない遅延なのにペナルティを課された**
- ⑤ 過積載になるのに積込時に**貨物量を増やされた**
- ⑥ 手作業での積込など、**契約にはない積込作業を強要された**
- ⑦ 契約にはない**ラベル貼り・検品などを強要された**
- ⑧ 約束と違い荷主が**高速道路料金を負担しなかった**
- ⑨ 予め小さなキズ程度であれば**貨物を引き取るのと取り決めがあるにもかかわらず買い取られた**
- ⑩ 運転が危険な**悪天候の中での配送を強要された**
- ⑪ 配送先で**コロナウイルス感染の差別的扱いをされた**

お送りいただいた内容について、投稿者様や所属企業・団体、荷主様に問い合わせすることは絶対にありませんので、ご安心ください。



QRコードを読み取って下さい。
国土交通省の投稿サイトにリンクしています。



国土交通省



公益社団法人
全日本トラック協会



公益社団法人
福岡県トラック協会



会員事業所の最新情報



新規入会事業所

支部	店・社名	代表者名	郵便番号	住 所	車両
相双	丸雅興業(株)	前 田 忍	979-2611	相馬郡新地町駒ヶ嶺字古海道 8-2	5

ふくトラ・インフォメーション



自動車安全運転センター「優秀安全運転事業所表彰(令和5年第2期)」について

自動車安全運転センター福島県事務所の「優秀安全運転事業所表彰(令和5年第2期)」が発表され、当協会会員事業所から30事業所が表彰されました。
詳細については右記QRコードからご参照下さい。



協会ホームページ▶

全国トラックドライバー・コンテスト出場を目指す皆様へ

全ト協では、全国トラックドライバー・コンテスト出場を目指すドライバーの皆様向けにこれまでの競技内容の具体的な紹介に加え、審査官による「審査ポイントの解説」を加えた動画を制作しました。
また、コンテスト学科競技の主な出題範囲や過去問題も掲載されていますので、参加を検討されている方は是非ご確認ください。



全ト協ホームページ▶

福島県トラック協会 人事異動のお知らせ

右記のとおり人事異動がございましたので、お知らせいたします。

2024年4月1日付

新役職	現役職	氏 名
総務部主任	適正化事業部主任	森口 政人
適正化事業部主任	業務部主任	遠藤 正樹

わだち
vol.07

「ゆみこ撩乱」

(株)丸東 代表取締役 西山 由美子



佐藤



西山さん

西山さんの経歴をお聞きすると、新聞記者を志望して郡山から上京し、税理士事務所、西濃運輸、ゴルフ場勤務を経て、27歳で社長業を継ぐという波乱万丈な半生に見えますが。

ゴルフ場のフロントにいた頃、私の仕事っぷりが認められたのでしょうか、お客さんの方と結婚しました。関東から来ていた原発関係の建設業を経営している方でした。でも、結婚4年後にその彼と死別してしまったのです。
悩んだ末に、私はその会社を引き継ぐことにしました。27歳で未亡人、この時が初めての社長業。引き継いだ最大の理由は96人の社員と家族のような付き合いでしたので、生まれたばかりの子供達をお風呂に入れたり、もちつき大会や旅行と、たくさんの思い出があったし、社員一人一人のストーリーに触れる機会が多かったのも、簡単に「じゃあね。皆さんさよなら」が出来ませんでした。
経営に奮闘していた矢先、もうすぐ厄年って頃に、取引先の会社が倒産しちゃって…その影響が大きく、このまま無理をしたら大変な借金背負う事になっちゃう…そこで、やむを得ず会社を整理しようって決断しました。その時、真っ先に相談したのが今の丸東の会長(今の旦那♡)。

今回は(株)丸東の西山さんとの
対談形式でお届けします！

(聞き手 佐藤 潔志)



西山さんは、人生の様々な困難な時期をどのように乗り越えてこられたのですか。



困難と思えるとき、結果的に周りの誰かに支えられ助けられてきた。
女性の経営者としてやっぱり孤独を感じることもあって、そんな時どうしたかという、同じ立場にいる人と話すことで紛らわせたのかな。それってやっぱりお酒の場面が多かったので、良い意味で私がお酒を飲める体質ってことがよかったのかも…お酒酌み交わして色んな話を聞くとかが大事だったかと…今思えば、人には言えない失敗もたくさんあったかもしれないけど(笑)



震災後、原発の関係では貴重な体験をされていますよね。



震災直後どこよりも早く1Fへ資材搬入のためにトレーラー入れたんです。運ぶのは当社のドライバー。そのドライバーたちの健康状態が一番心配でした。でも、ドライバーの家族はもっと心配だったと思う。その事が頭を過り…仕事を断るべきか悩みました。でもこれは使命だと思った。もしもこの仕事を断ってしまっただけで1Fが爆発しちゃったら、人生とかお金とかって言う場合じゃない!だったら「行かなきゃ」と!
関東方面から資材が来て広野町辺りで積み替えるんです。関東のドライバーはそこから北には行こうとしなかったの、うちの社員が1Fに持っていきます。私は1Fに向かうトレーラーの後ろを乗用車で何度も追いかけていました。「ごめんね。ごめんね」って言いながら…仕事とはいえ行かせちゃって。私が行けるんだったら代わってあげたいと思っていましたが当時、女性は1Fには入れませんでした。今でもあの時の光景を思い出すと涙が出てしまいます。1Fにトレーラーが入るまで見届けていました。
ちょっと自慢話になりますけど、震災後に女性で1Fに入るための登録したのは私が一人目なんです。でも、いざ入って決まったら突然母が亡くなってしまったんです。母は命をかけて原発に入ることを止めたのだと考えたりもしましたが、やはり業務上1Fに入りました。結果的に女性で初めて入ったのは残念ながら私ではなく当時経済産業相だった小淵優子さん。私は二人目。民間では一人目!?



最後に、好きなこととか、人生観とかをお聞かせください。



スポーツ全般の観戦が好きです。でもスポーツを観戦しながらお酒を飲むのがもっと好きかも(笑)。若い人たちが頑張ってる。そのエネルギーはすごい。応援したくなっちゃう。
人生観かあ…そんな大げさな話じゃないですけど、様々な挫折があって人との別れもあって。だけど沢山の人の助けられて、お酒を酌み交わすこともできて、生きるって大変なときもあるけど楽しいよね。(人生の節目で)自分が楽しいと思える居場所を見つけて、その方向に進んだからこそ今の自分があると思う。
ケセラセラ・モーニングタイ。いつも自分に「大丈夫!へっちゃら」と言い聞かせるようにしている。人生は楽なことばかりじゃないけど、大変なことでも楽しめるように。
子育てと会社運営は似たようなところがあって、どうしても後継者というと、自分と同じ思考・やり方の人を期待しちゃう。でも、子育てって子供の個性を尊重しながら独り立ちできるようにすることだと思ひ、それを見届けた時初めて自分も一人前になるのだと。
結局、会社もそうで、後継者として自分のアバターやクローンを作るんじゃなくて。
次世代の後継者の個性を認めてあげながら、目には見えないバトンを早めに渡していくことが大事だと思う。「身の丈に合わせて、自分らしく」って背中を押してあげたい。

～学生と若手経営者の 意見交換会～ 前編

2024年4月10日 (水) 13:10～
(公社)福島県トラック協会 2階大研修室



参加者 (敬称略)



司会 石川 友保
福島大学 共生システム理工学類 経営システムコース教授
専門分野／ロジスティクス、オペレーションズ・リサーチ
研究内容／配送計画や施設配置計画を中心に物流に関する研究。企業へのヒアリングや実態調査などの調査結果から問題点を明らかにし、線形計画法やシミュレーションなどのオペレーションズ・リサーチの手法を用いて、物流活動のモデル化や改善策の効果分析をおこなっている。



小峯 怜奈
福島大学 大学院 共生システム理工学研究科
博士課程前期課程2年
研究テーマは、ワクチンが不足している国がある一方、余っている国もある。その余っている国から不足している国にワクチンを運ぶことができれば、感染者数がどれくらい減るのかをCOVID-19に関するワクチンを事例に研究している。



大谷 三空
福島大学 共生システム理工学類 4年
トラック運送業界の多重下請け構造が、インボイス制度の影響によってどのように変化するかをテーマとして研究。また、インボイス制度導入によって、中小のトラック運送業者の人たちの賃金への影響、あるいは取引状況が変わったりして、業者の数が減ることによって、多重下請構造に何か影響があるのかを研究している。



吉田 雅弘
株式会社須賀川東部運送 代表取締役
大学卒業後、鉄鋼メーカーに就職。2代目社長の叔父の薦めで後継を決意。東京の物流商社に3年務めながら、夜間の社会人大学院で経営学を専攻。37歳の時に3代目の社長に就任。その後、稲盛和夫氏の「盛和塾」に入塾し経営道を学ぶ。「品質は人質(じんしつ)」を旗印に経営している。現在50歳で3人の子がいる。



引地 孝之
株式会社ディリーサービス 代表取締役社長
福島大学の経済学部を卒業、在学時から家業の手伝いをし、家族を支える。その姿を地元スーパーの役員に認められ、現在の会社を創業。業務は主に地元スーパーの輪配送、卸売業のノウハウを活かした提案をしたところ、福島市の納豆とヨーグルトの消費量日本一に貢献。親と家族を大切にすることが会社の理念。現在51歳。

オブザーバー



田母神 正広
福島県トラック協会
専務理事



藤家義弘
福島県トラック協会
業務部長

田母神／今日は、物流フランクリースピーキング、学生と若手経営者の意見交換会ということでお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。ご承知の通り、トラック運送事業は今、国も一生懸命物流を停滞させないということでいろんな施策を矢継ぎ早に出されており、我々も何をやってどう取り組んでいくかということで必死になって、自らのセミナー、研修も含めてやっているところでございます。社会的に大きな問題は、物流の2024年問題です。お話は聞いてるかとは思いますが、これは基本的に、今まで上限規制がなかったトラックドライバーの労働時間に時間外の上限規制がつくということ。根本的に労働基準法の改正に伴うもので、既に5年前から通常の産業界は全部適用されていきました。建設業とこの物流業と、それから医療の関係ですね、こちらはちょっと特殊ということで5年間の適用猶予がされておりました。それがいよいよ今年の4月から実施になります。トラックドライバーは通常の労働基準法の労働時間だけでは管理がしにくいので、この業界独特なんです、別途トラックドライバーの改善基準告示というのが労働基準法に基づいて示されてます。この中には、ドライバーさんが1日運転できる時間だとか、会社に出社してから終業までの1日拘束できる時間、それから勤務のインターバル、次の勤務までの間に今度は9時間以上取るとか、そういう

いろんな制限がありまして、それを守ることによって、結果、労働基準法を守れるという形になるわけでございます。

業界としては時間外が減っても給料の水準が減らないような取り組みをしなくちゃならないということで、そうしないとドライバーさんが生活を維持できないということになりますので、そこをしっかりと抑えていく。通常の業務の中で無駄と言われている時間、荷物を積むために待ってる時間だとか、余計にかかる積み下ろしの時間だとか、これをお客さんと話をして短くする。労働時間をそもそも短縮する。それともう1つは、きちっと事業を営んで、継続できるような料金をしっかりいただく、この交渉をやっていくということなんだと思います。

そういう大きな流れの中で、今物流は変わろうとしています。したがって、若い皆様のご意見もいただきながら、しっかりいろんな角度からの意見を踏まえて、我々業界としてどういう風に進んでいくべきか、また会員事業者さんにどう指導していくべきか、こんなことを今日はちょっと意見交換させていただければと思いますので、限られた時間ではございますが、最後までどうぞ有意義な意見交換となるようよろしくお願いします。



田母神専務理事

若者が運送業界に抱くイメージと、魅力ある業界づくりのアイデア

石川／まず最初の議題ですね。若者が運送業界に抱くイメージ。学生と企業の方の接点というやはり採用とか就職ということだと思んですけども、その時におそらく重要になってくるのがこのイメージじゃないかと。では、実際に大学生ってどんなイメージを運送業界に持っているのかなというところから議論をスタートしたいと思います。



石川友保教授

2022年にインターツアーという会社が大学生を対象に行った調査結果では、物流業界のイメージは、プラスのイメージとしては、社会貢献度が高い、安定している、グローバル化が進んでいるという意見が多いようです。一方、マイナスイメージとして、作業的、全国転勤がある、ワークライフバランスが取れない、給料が低いとか、そういうイメージがあるということですね。皆さん、反論は多分あると思うんですけども、こういうイメージを持ってるということです。

それでは意見交換に移りたいと思うんですけども、今思ってることを率直に言っていただければいいと思います。それではまず小峯さんからお聞きしたいと思います。物流、運送業界ってどんなイメージあるかというのを教えてください。



小峯怜奈さん

小峯／運送業界というと、第1にドライバーというのが仕事内容に浮かぶと思うんですけど、そのドライバー以外にどんな仕事があるのかが具体的によくわからないというのがあります。あと、女性がどんな活躍ができる業界なのかっていうこと。男性がメインで活躍してる業界っていうイメージが強いので、自分がその業界に入った際に女性ならではの活躍というのはあるのかというのと、女性としてどういう風な働きができるのかイメージもしにくいというところがあります。

石川／はい、ありがとうございます。では大谷さんの持ってる運送業界のイメージを教えてください。

大谷／運送業界はIT技術とかそういうものに関連してると思うことが多くて、スケジュール管理や在庫管理も、デジタル化をすすめている会社も多いなって思ってます。他には、社会を回す上で不可欠な仕事だなと思っています。



大谷三空さん

石川／はい、ありがとうございます。では、経営者の方にお伺いしたいと思います。物流業界に対して学生はいろんなイメージを持ってると思うんですけども、これが物流業界の魅力であるというのを教えてください。まずは吉田さん、いかがですか。

吉田／経営者の立場で言うと、すごくニッチなエリアがたくさんあるんですね。やり方によっては、そこでもビジネスが大きくなっていくという、そういう未来感が描ける業界だと私は思ってるんです。

あとは実務的なところを言うと、「テトリス」って皆さんやったことありますか。あのテトリス感が結構あるんですよ、現場的には。トラックだと物を移動しますけどね、車を手配してる「配車」という会社の要になってる人たちは、コンピューターも使ってますけど、頭の中で車が今日は栃木行ってるとか、大阪行ってるとか、何時に帰ってきてその後の動きの組み合わせなどを、時間と距離を考えてコントロールしなきゃいけないんです。それがはまった時の喜び、これがはまると会社としてはもう利益がドカンっていくんですよ、このテトリス感。



吉田雅弘社長

それからあと、倉庫で言うと、何回も指図がかかるようなやつは手前に置いたりとか、あんまりお客さんが必要としてないのは脇の方にやったりとかするんですけど、限られた空間の中にどううまく詰め込んで効率よく取り出すかっていうのは、やっぱりテトリスなんですよ。意外と理科系と親和性はあると思うんですよ。コンピューターや数学に興味があるという方にははまるかなと。そこが魅力だと思うんです。デジタルに親和性ができてきてると思います。

石川／はい、ありがとうございます。引地さん、いかがでしょう。



引地孝之社長

引地／私も物流は数学だと思ってたんですね。今の話と一緒に、例えばお客さんがこれ運んでほしいと、ここがちょっとうまくいなくてというところで物流提案をするんですね。配送の具合教えてくださいって聞いて、あ、これはこの組み合わせじゃなくて、こういう組み合わせの方が最短距離だし、積載効率も上がって、お互いに無駄な経費削減して利益増えるから、こういうのどうですかって話はよく提案します。

ロケーション管理って言って、番地付けでよく出る品のは手前っていうセオリーがあるんですね。あと、固定ロケーションとかフリーロケーションというのがあります。固定は毎日よく出る品で、同じ場所に決めてます。たまにしか出なくてどこでもいいよというのはフリーロケーションで、あっちこっちに置いています。それがコンピューターで番地付けを指定してくれるので、その日入った人でも、その場所にたどり着けて持ってこれます。

物流拠点をどこにするかを考えて提案するのも結構大事なことで、物流の世界では、メーカーさんがどこに工場を置くかというのはとても大事なところですよ。

やっぱりロジスティクスが物流の役割で魅力というか。日本はロジスティクスって言ってもなかなかピンとこないし、上に見られないんですね。これ、アメリカ行くとロジスティクスって花形なんです。私も物流経営士の資格取って向こうに行った時に、ロジスティクスは向こう花形だあって、優秀な人が入ってくる業界だあって言われたので、まずそこから違うなと思って。

それから、部門ごとにそれぞれ生産性が同じになるように進捗管理しています。この作業をもっと早くするのにどうするか、バラでやるのをやめて、バラをケース出しにして、ケースをパレット出しにするとともに単価が下がりますよとかね、数字に基づいてやっているところが物流現場なんですね。そんなのもやっぱり数学だと思うんですけど、この世界では実際にやっていることです。

石川／わかりました。ありがとうございます。その数学的に拠点を、配置を決めるとか、あとは経路選択をするとか、そういうのに興味があって私もこの研究をしています。では、その魅力というのを皆さんどういう風にPRされてるかっていうのを次にお伺いしたいと。

引地／考える時間がないですね、PR。うちの会社は大きくないので、ホームページとかSNSを使って、働きやすい社風だよとか、アットホームだよとか。そんなところに共感してくれる人が入ってくればいいなと思っています。あとうちの社会貢献がよいというって入ってきた高校生がいました。SDGsの観点から社会貢献は色々やってきました。今までは、いいことは隠れてやるっていう「陰徳」という考え方だったんですけど、やっぱり出さないといけないのかなという時代なので。そしたらそこに共感してくれる方はいましたね。

吉田／私も「陰徳」をずっと胸にやってきましたが、やっぱりPRしなきゃいけないって切り替えたのは今から7年前ぐらいで、新卒採用で福島FMに広告出し始めたんです。正直、PRが苦手な業界だと思います。さきほど小峯さんがドライバー以外は仕事の内容がわからないとおっしゃられたのはぐさとききましたけど、まさにその通りだと思いますね。ただ、圧倒的に職種としてはやっぱりドライバーなんですよ。ドライバーに関して言うと、昔は車が好きな人に入ってもらったんですよ。やっぱり車を大

事にする。そこに、なんていうか、職業的なプロ意識をすごく持ってます。そういう方が減ってきてる。なので、どこにこう我々はPRしていけばいいのかわからなくなってます。

石川／今の学生にそのような内容を伝えるにはどういう風に伝えればいいか。PRの仕方について何かアイデアがあれば教えてください。今度は大谷さんから。

大谷／例えばホームページとかでそういうことをアピールするじゃないですか。そこで見たとして、いいことばかり書いてあると、なかなかこう信じにくいところもあります。じゃ、どうやってその信頼性というか、信じてもらえばいいかっていうと、若手や実際に入った人の意見が伝わってくると、信用度合いが結構違うのかなと思ったりします。今だとSNSとかで発信していく方法とかがいいんじゃないかなと思います。

石川／わかりました。ありがとうございます。小峯さん、いかがですか。

小峯／実際に現場を見る機会とか、仕事を体験できるような機会があると、より深く分かって具体的に考えやすくなってくるのかなと思いますし、あと、ホームページでは、写真や文とかだけじゃなくて、動画の方がより伝わりやすいのかなと思います。就活しても動画がある会社の方が働くイメージというのが湧きやすい傾向にあります。



運送業界の多重下請け構造への課題と改善案の共有

石川／次のテーマに移りたいと思います。運送業界の多重下請け構造への課題と改善案の共有ですね。参考資料をご覧ください。荷主から元請けが委託されて、それをさらに2次、3次っていう風に何重にわたって再委託する構造を多重下請け構造という風に定義しています。下請け構造自体は必ずしも悪ではないという風に私は思っています。自分の会社で余裕がなければ他にお願ひするし、かと言って自分の仕事が無ければ他のところにちょっと都合してもらおうとか、そういう助け合い、それはそれでいいものなんじゃないかなと思います。ただ一方で単純に仕事をトンネルするだけの仕組みであれば、それはすごく良くない。何重にもすることによって実際運んで人の運賃がすごく下がってしまうということになれば、それは問題なのかなと思います。

このテーマに関しては経営者の方からまず聞きたいなと思っています。皆さんが企業として実感されているというか、多重という風に感じてらっしゃるのか、何が原因となっているのか、肌感というか、現場感としての多重下請け構造をどう考えるかというのを教えていただきたいと思っています。では、このテーマに関しては引地さんから。

引地／うちは荷主さんと直でやってるので、卸売業もやってるからよくわかるんですよ。卸も一次卸、二次卸は仕入れ金額が上がってきて自分の儲けが減るのと一緒なので、元々直でやるっていう発想ですね。問屋さんとかそういう荷主さんは全部直なので、これは直でやらないとなかなか儲からないから。実運送が儲かる下請け構造にしなければという思いがします。

石川／引地さんの会社は基本、小売からの直ですよ。別の運送業者さんに頼むということとは？

引地／ないです。横受けをお願いします。基本的に下請けないですよ。もう横受けですね。

石川／わかりました。ありがとうございます。では、同じ質問を吉田さんをお願いします。

吉田／これはほんと、良くも悪くもっていうことで、私たちはもうそれでどっぷり浸かってやってきてるんですね。いい点も悪い点も感じてます。実際、須賀川東部運送の工業製品系の仕事は60パーセント外に出してます。そういうところとやっていかないと仕事がこなせない。今、4、50社、常時取引してる運送会社さんがありまして、自分のところのトラックの台数は70台ですけれども、単

純に言うと180台の配車をしています。それを考えると、例えば地元の福島県域の中だけで中型トラックで配送している、きめ細かく配送しているっていうのは、そんなに多重下請けにはならないんですよ。ただ、長距離、例えば福島県から関東とか、福島県から名古屋とか岐阜とか、いわゆる大型トラックで幹線を輸送しているトラックっていうのは、多重下請け構造っていうのは、下手すると5次、6次もあってもおかしくないかなと。

石川／わかりました。ありがとうございます。では、今2人の経営者の方からお聞きした内容を受けてどう感じたかというのを大谷さんから聞こうかな。多重下請けが、話を聞いててやっぱり必要。いや、必要じゃない、あるいはその原因としておっしゃっていただいたことに関してはもうちょっと深掘りして聞きたいとか、基本自由なので、ぜひ意見をお願いします。

大谷／そうですね。先ほど、その下請け、3次ぐらいまでないと厳しいみたいな話聞いたんですけど、感覚として、やっぱり3次は欲しいみたいな感じですか。

吉田／どこを1次に捉えるかっていうのがありまして、我々だと結構大手の物流業者さんが1次受けに入ってるパターンもあるんですよ。仮にうちが1次受けだとすると、特に長距離とか県をまたぐ移送になってくると、片道だけしか荷物を持ってきていない運送会社さんがいたとすると、そこをうまくマッチングさせて、例えば関西方面に荷をつけて返してあげる、やっぱり信用がしっかりしてるところと、やりたいっていうところなんですよ。経済上の問題もあります。

大谷／大手の運送業者さんも下請けを使うと思うんですけど、それってその大手のところでもトラックの台数が足りなくなってるからなんですか。

吉田／賃金が高いんで、自社便でやると合わないですよ。みんな合わないんで、やっぱりそれなりに。

田母神／多分とってる仕事量に対して供給できる戦力は（大手は）持ってません。最初からそういう商売を、この多重構造を基本的に前提とした商売の組み立てをしています。だから割合はバラバラですよ。100の仕事があった時に、半分は自分でやる大手もあるだろうし、3割しかやらないところもあるし、もう10%ぐらいしかやらなくて、あと90%下に出すと。それは色々考え方、ものの量、それから時期的な差、こういったものを考えて、必要最低限のこ

うぐらいは自分のところで持つけど、それより大きくなる分は全部他社活用で生き抜いていくっていう発想のところが多い。それと、この多重下請けは、この業界の免許は簡単に取れることになったことはいいんですが、要は真荷主を持たなくても免許取れるんですよ。1番手っ取り早い話が、運送会社から仕事をもらう。仕事のやり方がお客さんと交渉して、運賃だどうのこうのじゃなくて、はい、これいくら払うから走ってねって言われたのを受けた方が簡単だと、営業力も持たなくていい、ただ車のコントロールだけすればいいと。もらった金額の中からドライバーに賃金を払えばいいって発想でやる会社がやっぱり結構いるんですよ。だから、下請け構造がなくならないんです。

国が、自由度、いわゆる経済の活性化という理由で、物流をもっと自由化しようという風に規制緩和をしたおかげで、結果、今の多重構造が出来上がってしまった。そうすると、さっき言った元請けの大きい会社は、100の仕事に対して10%から15%は自社の戦力、極端な話、100%全部下請けに出す会社だってあるわけですよ。それで、ネットワークだけ作っておけば仕事がこなせると、ない時は仕事ないよって言えば、その会社は全く損しないわけですよ。

石川／下請けの会社に出す時っていうのは、受けられるキャパシティとかも踏まえて出されるもんなんですか。それとも、もう丸投げしちゃうっていうイメージですか。

吉田／キャパシティを考えて出しますけれども、その会社が持っている車両のキャパシティだけではなくて、その人の持っているネットワーク力ですね。そこをあてにして出すこともあるんです。この人に出したら、ノーっていう言葉絶対ないっていう人がいるんですよ。

石川／すごいですね。なんかすごいノウハウを持ってる人がいるわけですね。

吉田／そうですね、ネットワーク力だと思いますけど。

田母神／アメリカのトラックドライバーの賃金が高いのはアメリカの社会、物流っていうのは下請けダメなんです。元受けオンリーなんです。だから、真荷主と直接運ぶ運送会社が直接契約をしていくっていう考え方、そこから、そのアンダーに入って運ぶってことが認められてないですね、国の法律として。だから、日本もそうすべきじゃないかっていうけど、5次ぐらいまで下請けがあるところ

が、それダメと言ったら、もう2次、3次、4次、5次の忙しさどうするのって話になるんで、一気呵成にはいかないと思いますが。やっぱり協会としては、この多重構造を容認した状態でトラックドライバーの賃上げはできないだろうということで。

石川／法制度がどう変わるか、っていうところですね。

（後半の「運送業界がカーボンニュートラルに向けてできること」の内容は、次号7月号にて報告いたします。楽しみに。）





陸災防NEWS

今月のお知らせ

令和5年度「安全衛生レベルアップ支援事業」を開催

開催日 令和6年3月21日(木)

場 所 福島市 福島研修センター

陸災防福島県支部は、「安全衛生レベルアップ支援事業」の第3回集合研修会（終了証交付式）を開催し、この半年間の取組の総括を行った。

開会冒頭、佐藤支部長から「半年間、取り組みをして、いままで会社の中で取り組んでいなかったことを吸収できたのではないかと思います。リスクの低減を図るため問題点を見つけ出し改善していったほしい」と挨拶があり、参加事業場より取り組み総括発表を行い、支部長より各事業場の代表者一人ひとりに終了証を交付した。



終了証交付事業場

福島運送(株) (県北) / (株)タムラ (県中) / (有)だいわ運送 (県南)
會津通運(株) (会津) / (株)ケー・アンド・ワイ (相双) / (株)NCT四倉 (いわき)

「レベルアップ支援事業」に取り組んでの感想

- 今回の支援事業でこれまでの安全衛生に対する自分自身の知識不足だと感じられました。支援事業で学んだことを会社全体に生かし、また自分が今後スキルアップできるよう取組し、労働災害を発生しない様に取組み、明るい会社作りが出来ればと思います。
【福島運送(株) 支店長代理 渡邊 公善 様】
- 安全衛生へ取組めていると思っていたが不十分な部分があり、今度も定期的な見直しや逐次整備が必要だと感じた。今度は「安全はすべての業務に優先する」を方針の核に、安全に配慮し地域の物流を支えながら、全社員一丸で取組み無事故無災害を目指す。荷役災害の増加傾向を背景に、荷主と連絡調整を強化し荷役の役割分担の明確化等進捗を図れたらと思う。
【(株)タムラ 取締役 堀井 有馬 様】
- 最初お話を頂いたときは詳しい活動内容などを聞かずに参加したのですが、1回目から今まであまり普段作業をしている現場で考えてこなかった職場の安全に対する意識が、こんなにもあいまいなものだったかと痛感しました。組織図や管理規定の作成を通して、改めて安全に運営するための基礎を再考する機会にもなり、フォークリフト作業も何となくの流れでやっていたのが作業指示書を作成する上で様々な危険が考えられ潜んでいることを知りました。今後は、安全会議等も定期的に開催する機会を作り、安全に対する意識を高め運営に活かしていきたいと思います
【(有)だいわ運送 専務取締役 蛭田 亘 様】
- やらなければならないという気持ちばかりが先行し、何となくやってるつもりでいたことが内容を精査しスリム化していくことで一つ一つの内容に丁寧に取組んでいけるように感じる。最終的な報告をさせていただいた内容で今後も取組んでまいります。
【會津通運(株) 本社営業所係長 佐藤 博明 様】
- レベルアップ支援事業に参加させていただいて、これまでの意識が低かったと感じた。今回、支援事業で基盤となるものを作ることができたので、今後、社内でもより良い社内環境作りや整備を続けていけるよう取組んでいきたい。
【(株)ケー・アンド・ワイ 営業課長 上田 貴洋 様】
- 労働災害防止のため各自が不安全行動をなくすことを目標とし、より踏み込んだ具体的対策により目標を達成していきます。(例えば、リスクアセスメントにより作業手順を見直し、遵守する) また、4Sを定着し、より浸透させることにも取組んで参ります。
【(株)NCT四倉 取締役支店長 高野 智幸 様】



令和6年度『第42回福島県フォークリフト運転競技大会』のご案内

フォークリフト運転競技を通じ遵法精神と安全意識の高揚及び運転の知識と技能の向上を図り、もって職場における安全作業の確立と労働災害防止の推進に資することを目的としています。

令和6年度は以下により実施します。多数の皆様の出場をお待ちしております。

挑戦してみませんか？

- 👑 社員の技能向上の目標として
- 👑 社内指導者の資格制度として
- 👑 荷主等へのアピールとして



開催日時 6月22日(土) **受付** 9:00～ **開会** 9:30～ **閉会** 15:00 ※予定

場 所 福島県トラック協会研修センター（福島市飯坂町平野字若狭小屋 32）

競技方法 学科、点検、運転の競技種目で競います。

- 参加資格**
- 会員事業場の従業員で勤務成績が優秀でかつ、フォークリフト運転技能講習修了後1年以上経過していること。
 - フォークリフト又は自動車運転により過去1年間無事故であり、過去3年間人身事故を起こしていないこと。

- 表 彰**
- 「一般の部」及び「女性の部」は、第1位から3位までの者を表彰する。但し、部門で参加者が3名に満たない時は、1位のみ表彰する。（女性は、「一般の部」でも参加ができます。） 出場者全員に参加記念品贈呈。
 - 「一般の部」2名（参加者が15名未満の時は1名）
「女性の部」1名 全国大会出場推薦。

- 参加方法**
- 参加申し込みは、分会長の推薦となりますので、所属事業場を經由して各分会（トラック協会各支部）へお申し込み下さい。参加料は、無料です。



フォークリフト運転競技大会 実技指導研修会のご案内

技能レベルアップのために実技指導研修会を行います！

期 日 6月8日(土) 8:30～ **場 所** 県トラック協会研修センター（福島市飯坂町）

参加資格 大会出場予定の希望者 **申込方法** 詳細は、大会参加者に別途ご案内します。

研修内容 協会実技講師による大会競技実施要領に基づいた実技（点検・運転）指導を行います。

参加費
無 料

問い合わせ先



陸上貨物運送事業労働災害防止協会 福島県支部

TEL: 024-558-9011



※ 新型コロナウイルス感染症の関係で、今後の日程及び開催内容につきまして変更する場合があります。



プロスポーツ
4チームを

応援しています!



提供: 福島ユナイテッドFC



提供: 福島レッドホープス



提供: 福島ファイヤーボンズ



提供: いわきFC



福ト協は、福島県のプロスポーツ4チーム「福島ユナイテッドFC、福島レッドホープス、福島ファイヤーボンズ、いわきFC」に協賛しています!

前年の「トラックの日」キャンペーン事業では、いわきFCの冠試合を行い、サポーターと共に大いに盛り上がりました。今年も各プロスポーツチームとのコラボや応援を通してトラック運送業界の認知度向上及び業界イメージアップに向け、各チームと連携し福島を盛り上げていきます!



会場にふくトラくんが応援に駆け付けることも!?



今年は福島ファイヤーボンズの冠試合を予定しています! みんなで応援しよう!



レッドホープス岩村監督も来協しました



お知らせ

交通事故統計

第一当事者が県内居住の事業用貨物車の交通事故発生状況は下記の通りとなります。

交通規則を守るとは、社会人としての基本的な責務です。会員事業所におかれましても、プロドライバーとして、より一層の交通安全対策をお願いします。

よろしく
お願いします!



第一当事者が県内居住の事業用貨物車の交通事故発生状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2024年 (概数)	発生件数	6	1	3										10
	死者数	0	0	0										0
	傷者数	9	1	3										13

4つの
心得

交通ルールの遵守

思いやり運転等交通マナーアップ

速度の抑制

交差点での安全確認の励行



トラック広報 わだち5月号 (通巻513号)

2024年5月1日発行 (2ヶ月毎に1回)

編集発行

公益社団法人 福島県トラック協会
〒960-0231 福島市飯坂町平野字若狭小屋32
TEL 024-558-7755(代) FAX 024-558-7731
HP <http://fukutora.lat37n.com/>

